



市長モリテツの
ほっとトーク

May 2022

多様な発想を生かした三田の活性化

— 女性や若者の発想を大切に —

三田市長 森 哲男

約7年前、市長に就任した私が驚いたことの一つは、市の管理職に女性職員が非常に少ないことでした。特に、重要政策を議論し決定する会議のメンバーに女性職員は全くいませんでした。平成28年度に市初の女性部長が誕生。その後、人事評価制度の見直しや管理職選考への奨励などにより、女性管理職の割合（病院・消防を除く）は少しずつ向上し、現在は15.9%です。

今後は、働き方改革の一環として、令和7年度までの20%達成を目標に取り組みを強化していきます。現在、本市の全職員（病院・消防を除く）のうち女性職員の割合は50歳代で約16%ですが、40歳代約37%、30歳代約53%、20歳代約55%と増えるため、今後、更に女性管理職の割合が高まることを期待しています。

一方、市内の業種団体や地域団体を見ると、団体幹部を高年齢の男性の方々が占めている団体が多くみられます。このことは、一昨年、「コロナ禍での市の感染防止対策及び経済対策等」について政策提言をいただくため、市内の各種団体のリーダーの方々に集まっ

ていただいた会議を開催した際に改めて感じたことでした。今、三田はコロナ禍を乗り越え、人口減少にも負けない「新たなまちの変革」を目指しています。経験豊富な高齢の方の意見を尊重することも大切です。そして、コロナ禍のように先行き不透明な時代を乗り切るためには、女性や若者の「多様な発想」も大切にする組織に改革していくことがとても大切であると考えています。

また、技術革新など社会の変化が激しい今、若手職員の斬新な発想も求められています。この発想を積極的に取り入れることが新しい時代を切り開くために重要だと考えています。特に「ネット世代」と言われる若手職員には、デジタルを活かした政策の立案に自ら関わってもらいたいと期待しています。

三田では、以前から女性のボランティア活動は盛んですが、最近は学生の参加に加え、様々な分野で起業する女性や若者の活躍が目立ちます。今まで見られなかった新しい力を、積極的に活用させていただき、共に「三田の新たなまちの変革」を進めていきます。

Mayor's Photo Diary



3月22日 関西学院大学生が三田市の地域課題を解決するアイデアを市長に報告しました。



4月3日 「三田さくら物語」の開始を宣言。創立100周年を迎えたOSK日本歌劇団がショーを披露



4月15日 阪神間7市1町と神戸市が太陽光パネル普及に向け、共同購入事業の連携協定を締結